

平成6年度

地域畜産状況レポートNo.5
社団法人 熊本県畜産会

あか牛100頭で豊かな生活

阿蘇郡西原村宮山 東 義秋氏

俵山ドライビングロードに立つと、その時、人は鳥になる。
眼下に熊本平野、遠くは金峰山、有明海、雲仙が望める。
西原村には夢がある。感動がある。
西日本一を誇る広大な採草放牧地には西原公共育成牧場もある。
その麓に、熊本の畜産を代表する、あか牛経営の堅実な東牧場がある。

素牛の基準は血統が一番

東牧場のあか牛頭数は75頭。平成6年の販売実績は60頭。出荷体重720kg、枝肉単価1,450円、格付A3以上80%。もっとも驚くことは、一日当りの増加額が735円と、県畜産会が実施するコンサル実績では、すべての肉用種(乳用種、黒毛和種、あか牛)のなかでダントツである。数字からみれば、熊本県産あか牛の経済的優位性がうなずける。もっと、あか牛に自信をもつべきである。

素牛は、すべてせり市。(南阿蘇畜産農業協同組合)

体重は、10ヶ月令で300~310kgをめやすとしている。

素牛導入の基準は、血統が一番。

現在は、あか牛肥育の他に米60a、さといも50aの複合経営であるが、忙しいばかりで、経済的には、あか牛に支えられているのが実態である。あか牛肥育を、100頭にすれば、仕事も単純化できるし、豊かな生活ができる。やっぱりあか牛が一番いいとか。

昭和52年(結婚昭和50年)、どうせ百姓をするなら、肥育経営をと、後継者育成資金300万円を借入(牛舎200万円、素牛5頭100万円)、あか牛の肥育経営にとりくむ。

家畜商をしていた父から、「肥育だけはするな」と厳しく言われていたが、当時父が病気で倒れていたからできたのかも知れない。

6年後の昭和58年10月、努力の甲斐あって第3回熊本県畜産まつりに出品した肉牛は、農林水産大臣賞を受賞されている。

お金がたまったら牛を買う

素牛の導入は、熊本県畜産農業協同組合連合会が、実施する肥育団地事業の貸付金(根抵当権を設定)で5頭、10頭と徐々にふやしてきた。しかし、肥育し出荷すれば、餌代は勿論のこと、素牛代、その金利を精算することになるので、ほとんど残らないのが実態であった。

牛肉相場が下がれば、また新たな借金となる。**もうかる肥育経営の基本は、**いかに自己資金による素牛を導入するかである。昭和53年、南阿蘇畜協は、管内肥育農家の経営体質強化をめざし、出荷牛代の一部を支払う月給制(一頭当り50,000円)とし、とにかくお金をため、たまったら1~2頭を自己資金で揃える指導を徹底し、**自己資金有肥育牛80%**をめざした。東牧場の肥育団地事業の貸付牛は、現在8頭で、平成7年は、^{ゼロ}0にしたいと、意欲的である。

東牧場は昭和61年度、阿蘇南部地区公社営畜産基地建設事業で、40頭規模の畜舎を建設。総事業費1,400万円の75%は補助。補助残の350万円は総合施設資金の2年据置、15年払いである。なお、平成6年は、牛舎の増改築に合せ無利子の農業振興資金900万円と自己資金で33頭の素牛を導入。一挙に規模拡大ができています。

農業振興資金は2年措置5年払いである。この平成6年4月導入の33頭は、今年の6月出荷予定。たのしみである。



牛舎、自宅全景



東 義秋氏

自家配は、病気がでない

濃厚飼料の給与は素牛導入から出荷まで配合内容はかえず、ただ量を調整するだけで14ヶ月を迎えたらかならず出荷をしている。実績は、23.7ヶ月。素牛導入時月令は、現在の9.2ヶ月から、将来は8.5~9ヶ月を目標にしている。配合飼料だけでは、肉質もよくないし病気もでてくるので、最近では配合飼料30%を基本にし、いろいろの単味、ビール粕等を混合攪拌、独自の自家配飼料をつくり給与している。混合内容は、当該畜協管内肥育農家でそれぞれすこしずつちがっている。自家配飼料の給与は、素牛の導入時期、部屋によって、よく食べる群、たべない群とそれぞれちがっているが、飼槽に残ったものは、そのままにし、次に給与するとき、そのぶんを減らす。なお一日経ても残ったものは、翌日全部すてる。

子供3姉妹(17才、16才、13才)は、夏・冬休、土・日曜日に、餌給与、畜舎掃除を手伝ってくれる。

餌給与は、誰でもできるように単純化している。



餌の給与状態

粗飼料はただ

粗飼料の購入はヘリキューブていど。わらは、堆肥と交換、それだけで充分である。

素牛導入後、2ヶ月間給与する良質乾草は当該畜協所有の採草地(10ha)の5種混播牧草の乾草である。ただの条件は、参加組員がすべての収穫作業をするから、配給を受ける。配給量は、約15kg梱包100個。

堆肥交換でいただくいなわらは、ロールベールにし、搬入するので、ロール作業代として1梱包当り3,500円を支払っている。

平成6年は、118梱包、420,000円。このため、いなわらの保管給与が、とてもたすかっている。

夕方5時には風呂にはいる。

一日の作業はAM8～9:30、PM4～5:30の3時間。

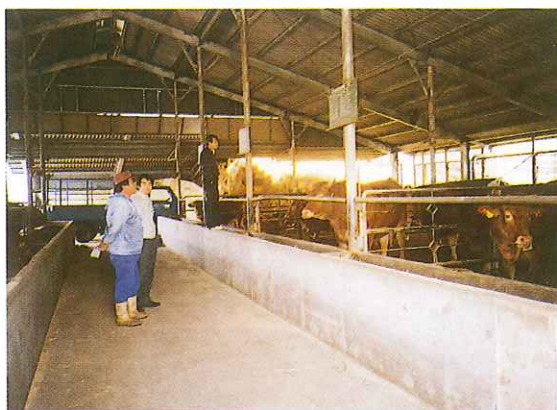
15日ごとに終日の堆肥だしと、敷料のノコクズ搬入が週1回、2時間。その他の時間は、昼間30時間の混餌づくりと、たびたびの牛観察。

餌箱に糞がはいっていないか、牛の健康状態、とくに足の腫などを注意してみる。餌は、なくなっても追加して給与することはない。

普通作の米・さといもの作付、収穫等の管理もあるが、夏は森林組合の下草刈の仕事も30日ほどしている。それ以上稼ぎに行くと牛の管理がおろそかになる。

当該組合のモットーは遅くまで仕事をしないこと。給与所得者と同じ条件でないと、後継者は残らない。

おかげで、当該組合管内の肥育農家には、殆ど後継者が残っている。



牛の肥育状況を見る

もうかる人はいつも牛舎にいる。

肥育牛出荷実績をみれば、日頃のとりくみ状態がすぐわかる。

枝肉格付の悪い場合は、「観察は充分か、敷料を充分とりかえているか」を点検する。経営が悪くなれば、すぐ他の部門に力を入れるが、これが功を奏することは殆どない。基本を忠実に管理すれば、畜種を問わずかならずいい結果がでる。

また、これがもうけのはやみちでもある。いい成績ができれば、楽しみであり仕事もおもしろくなる。

目標は、あか牛100頭の経営である。